



# みつぎ便り

第182号 11月号 令和3年11月1日発行 [http://itbs-ecopo.jp/environsurvey\\_report](http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report)

板橋区役所南部土木サービスセンターの花づくりグループとエコポリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次の会」です



## アメリカセンダングサ

秋から冬にかけて草むらや藪に入ると、服に茶色いトゲトゲしたものが付きます。これはアメリカセンダングサ、別名ひつつき虫の種です。よく見ると、カニの爪を平たくしたような形で二本のトゲがあり、カサカサとした質感です。人や動物の毛に付いて、出来るだけ遠くに種を運ぼうということなのです。平らで軽いビート板状なので、池など水に浮いて遠くに行くことも出来ません。

このような種を持つ仲間には「動物散布型」と呼ばれ、動物が通りかかるとのを待ちかまえてくっつきます。生物はそれぞれ種の保存に長けていますが、他力本願で遠くに仲間を広げようというという本能も面白いですね。

名前の通り、原産は北アメリカで秋に小さな黄色い花を付けますが、お世辞にもかわいいと言いたいのには残念です。そろそろこのひつつき虫が悩ましい季節です。どなたか簡



単に取る方法をご存知の方がいらしたら教えてください。  
(朋)

## ジョロウグモ

青く澄み渡った秋空に絵の具を掃いた様に浮かんでいる「雲」。でも今回取り上げるのは、そんな柔らかい「くも」ではなく、いささかケバケバしいジョロウグモです。その名の通り、濃い茶色に黄色の縞模様を配した脚の長い大型のクモです。

北海道を除く日本各地に生息し、見次公園でも「見次公園裏」の交差点からの階段を降りる左側の樹々の中や花壇のクリスマスローズの茂みの中にも見られました。

このクモはメスのほうがオスの体長の二倍以上も大きくなって、メスが大型の立派な網を縦糸と緯糸を配して

作りあげます。網にかかった昆虫やメスに近づこうとするオスまでも糸で絡み取り、毒を入れて捕食してしまします。

でも、この網に露が降り、そこに日光が当たると金色に光って、そんな恐ろしい目的の為に作ったとは思えないほど、美しくクモの糸は輝きます。この糸の主成分は「子ども科学相談室」によるとタンパク質からなり鉄の糸の五倍、ナイロン糸の二倍の強度があると言われています。なるほど、芥川龍之介の作品「蜘蛛の糸」の主人公が、天から降りてきたクモの糸にぶら下がり、地獄から抜け出そうとしたのも理にかなっているのかもしれない。

なお、「クモ」は昆虫と知っている人も多いようですが「クモ類」という独立した別の種類です。(静)

